

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670800465
法人名	医療法人 宏友会
事業所名	認知症対応型グループホーム「ほなみ」
訪問調査日	平成 19 年 8 月 1 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670800465
法人名	医療法人 宏友会
事業所名	認知症対応型グループホーム「ほなみ」
所在地 (電話番号)	山形県酒田市本楯字前田127-2 (電話) 0234-91-7123

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年8月1日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年6月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人、非常勤 2 人、常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	178円/日 円	その他の経費(月額)	525円/日 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要(6月27日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	66 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立酒田病院・小松歯科診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護老人保健施設、ケアハウスと共に地域福祉と介護の中心として、地域の人々や子供たちとの交流が盛んに行われており、認知症キャラバン活動、認知症が正しく理解されるための寸劇、FMラジオ番組「福祉と介護のふれあい広場」の担当など、幅広い積極的な啓蒙活動が行われているホームです。また、地域の夏祭りを主催し施設と地域の関係作りをさらに強めていこうとする姿や、自己評価のハードルを自ら高く掲げることで、さらに向上していこうとしている姿からも、職員、事務長、法人役員の「熱い思い」と「確かな実行力」に支えられ、より充実した展開を目指していることがわかるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価は全職員で点検をし、求められている点を確認し、より質の高いケアを目指し取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月ごとに開催され、活動報告やメンバーからの意見やアイデアを頂いている。席上、事務長が担当しているFMラジオの「福祉と介護のふれあい広場」のテープを聞き、知識や話題が広がり好評である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	「家族の日」を設けて、面会時に意見や苦情を言えるような雰囲気作りを心がけている。また、利用者や家族、職員と一緒に飲食をする機会を設け、本音や要望を引き出し運営に反映する努力も行われている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として、自発的に小中学生の見守り隊や保育園の掃除(窓拭き、草取り、床磨き)を行っている。地域のお祭りや運動会、文化祭にも積極的に参加し交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で今年度の活動方針を決め、今年度は質の高いケアと地域との交流拡大を掲げており、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月定例で全員参加の職員会議を開催し、理念や活動方針の確認や振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、自発的に小中学生の見守り隊や保育園の掃除(窓拭き、草取り、床磨き)を行っている。地域のお祭りや運動会、文化祭にも積極的に参加し交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価は全職員で点検をし、求められている点を確認し、より質の高いケアを目指し取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催され、活動報告やメンバーからの意見やアイデアを頂いている。席上、事務長が担当しているFMラジオの「福祉と介護のふれあい広場」のテープを聞き、知識や話題が広がり好評である。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者には、学習会の呼びかけや各事業所の意見・希望をまとめて報告し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金は金銭出納帳のコピーを毎月送付し、健康状態や暮らしぶり、職員異動は毎月の「家族の日」や面会時、ほなみ便り「ほがらか」で報告している。遠方の家族にはメールで定期的に連絡を取っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「家族の日」を設けて、面会時に意見や苦情を言えるような雰囲気作りを心がけている。また、利用者や家族、職員と一緒に飲食をする機会を設け、本音や要望を引き出し運営に反映する努力も行われている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の大幅な異動はないが、やむを得ず交代する場合は引継ぎや説明を十分に行い、利用者へのダメージを防いでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>酒田地区や県の研修会には経験に応じ計画的に受講しており、法人内の新人研修や中堅職員研修も実施されている。また、ケアマネジャーの資格取得の研修も積極的に支援している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流の中でネットワークづくりのリーダーとして活躍し、勉強会や交換実習を通して質の高いケアの展開を目指している。</p>		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は一家族と思ひ、得意分野を教え合いお互いに支えあっており、行事食や調理法、畑作業など職員が教えてもらう機会も多い。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活習慣や本人がどのような生活を送りたいか、本人や家族から具体的に聞き出している。歩行のためのリハビリや散歩、念仏なども介護計画に組み込み実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「気づき表」を個別に作成し、それを基に関係者、家族と職員で「利用者本位の介護」の検討をしている。毎月3人を目標にチームで課題分析をし、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに評価し、介護計画の見直しでは「もっと出来そうなこと」を盛り込み、生活に張り合いを持たせてレベルの低下を防いでいる。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医への通院介助は家族が行っているが、同 行できない場合は職員が付き添っている。通院時や急 変時には情報提供書を持参し、適切な医療への橋渡 しになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	契約時に重要事項説明書の「看取りに関する指針」を 説明し、家族の同意を得て方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	温かい声かけや対応で利用者の尊厳やプライバシー を保っているか、普段のケアの振り返りを重視してい る。個人情報の取扱いは、職員就業規則に基づき厳 しく徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の見守り隊や掃除の後、お茶を飲みながら、楽しみ ごとの参加や希望をその人に合わせて決めている。一 人で買い物に出かけたり、自分用の畑で作業をする人 も居て、多様な支援が行われている。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、配膳、片付けと利用者が主体となって楽しみながら作業している。職員と一緒に会話しながら笑顔が絶えず、適量を自分のペースで食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日16時頃から自由に入浴することができる。ほとんどの利用者が見守りや声かけ支援で入浴でき、一日の楽しみのひとつになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の生活歴を活かし、調理、掃除、畑作業をしたり、刺し子、習字、手紙書き、念仏、スポーツ民謡、カラオケなど趣味を活かした支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて散歩、買い物、花壇や畑の手入れなど、希望に添った支援をしている。ドライブや学校行事は人気があり、玄関に施錠して全員で出かけることも多い。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	部屋の配置上、職員室から玄関の出入りが見やすく、ドアベルの音で利用者の出入りの把握ができています。また、利用者に応じた対応が行われており、地域の人や面会者、子供達も自由に出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練は地震や火災が夜間に起きた事を想定し、身体で覚えて行動できることを目標にしている。防災マニュアルの確認は定例会で意識付けをし、防災頭巾の作成や毛布の準備など具体的な活動支援がなされている。		

山形県 認知症対応型グループホーム「ほなみ」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に水分量や食事量を把握し、飲み込みやすくトロミをつけたり刻み食にして、栄養バランスも考えた高齢者の好みに合わせた食事内容である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂は広く、窓や天窓からの光や風が季節を運んで、居心地のよい空間を作っている。また、台所は調理台を広くし、多人数での調理を可能にし、利用者主体の調理風景が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や小物が持ち込まれ、それぞれが個性ある安心で落ち着いた部屋作りとなっている。		